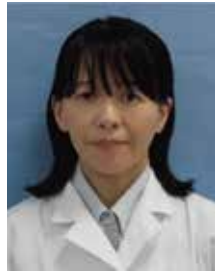
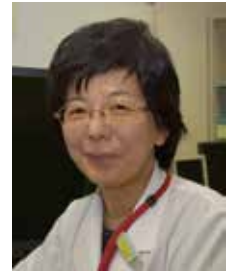


レビー小体病

核医学検査が必要な場合は
当院にご連絡ください



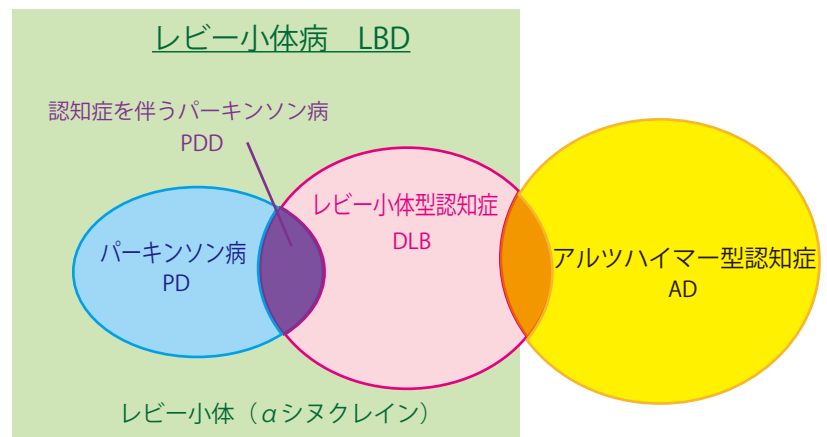
神経内科 中下聡子
(日本神経学会専門医)



放射線科 堀 郁子
(日本医学放射線学会専門医)

レビー小体病とは

レビー小体病 (LBD) は、パーキンソン病 (PD) やレビー小体型認知症 (DLB) を含む疾患群です。本症は α シヌクレインを主要構成成分とするレビー小体の出現が神経病理学的特徴で、レビー小体病の認知症の中には一部アルツハイマー型認知症を合併することもあります。特徴的な症状や経過を示すことから、この病気を理解することは治療や介護のために重要です。診断の参考になりそうな具体的な初期自覚症状や家族の訴え、検査を選ぶ際のポイントなどを紹介します。



レビー小体の出現

レビー小体が、主に脳幹に現れるとパーキンソン病になり、さらに大脳皮質にまで広く及ぶと、レビー小体型認知症になります。しかし、レビー小体病の発症については、現在十分に解明されていません。

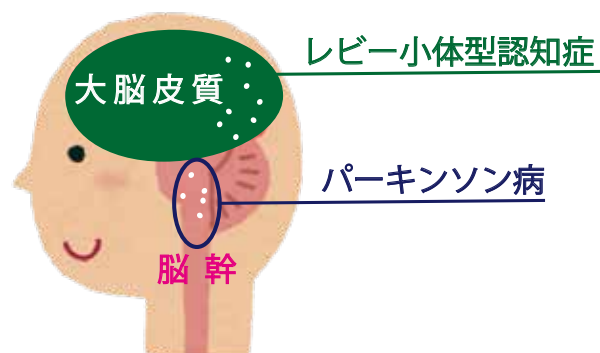


図2 レビー小体の発現部位

